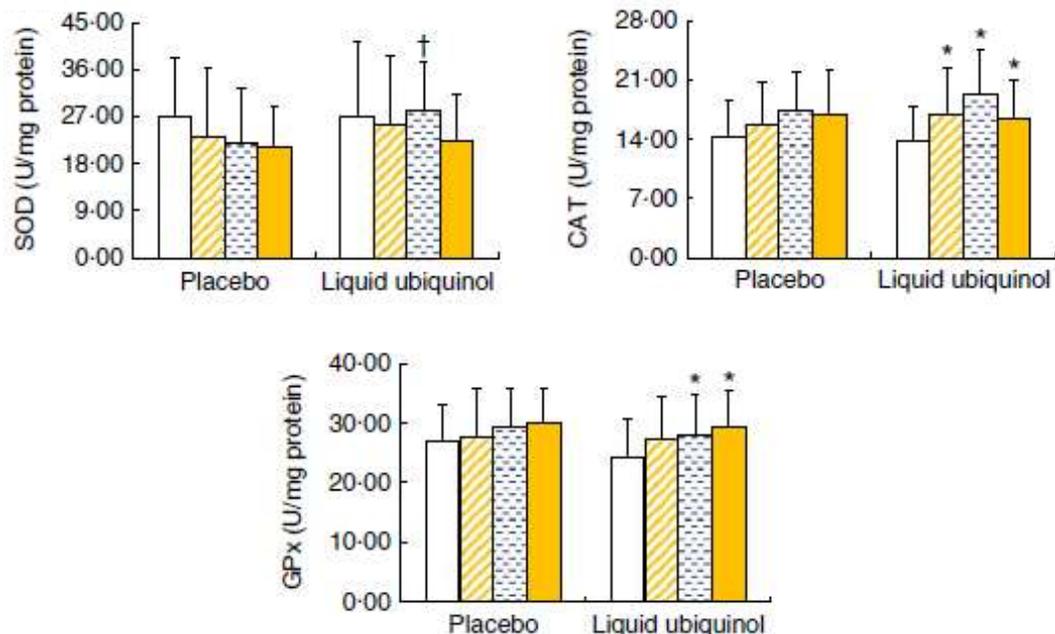


## II型糖尿病患者に対する還元型CoQ10の 抗酸化酵素活性の改善



### 検査時期

- : 摂取前 (ベースライン)
- ▨ : 摂取4週
- ▩ : 摂取8週
- : 摂取12週

グラフは平均値±標準偏差を表す

† p=0.01 (SOD) vs Placebo

\* p < 0.01 (CAT) あるいはP=0.03 (GPx) vs 摂取前

### 【試験方法】

- 試験デザイン: ランダム化二重盲検対照比較
- 被験者: II型糖尿病患者 (投薬治療中) 47名 (台湾)  
※治療薬: ビグアナイド薬、スルホニル尿素薬、チアゾリジン薬、DPP-4 阻害薬、α-グルコシダーゼ阻害薬、インスリン
- 食品: 12週間摂取  
還元型CoQ10(100mg/日、24名) またはプラセボ (23名)
- 評価: 抗酸化酵素活性 (血漿)

### 【結果】

- 還元型CoQ10群 (ubiquinol) では、プラセボ群 (Placebo) に比べて摂取8週時のSOD活性が有意に高値だった。
- 還元型CoQ10群では、CAT (カタラーゼ) 活性は4、8、12週で、GPx (グルタチオンペルオキシダーゼ) 活性は8および12週で、摂取前に比べて有意に高値だった。
- プラセボ群では、SOD活性、CAT活性およびGPx活性に試験期間を通して変化がなかった。

(Yen C-H et al, Br J Nutr. 2018; 120:57-63より作成)